

**横浜市立 浦舟特別支援学校** 小中  
部 学校評価報告書 （ 令和 4 ～ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度		総括	重点取組分野	令和 5 年度		総括	重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①医療、保護者、前籍校との連携を深め、一人ひとりのニーズに応じた学習計画を立てる。 ②個に応じた学びと協働的な学びの充実を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ③アンケートの授業評価をもとに学習指導の振り返りと授業改善を行う。	①従来の関係者に加え福祉とも連携をとり、学習計画に生かした。②個に応じた学びだけでなく、協働的な学びの場を意図的に設定した。児童生徒が多様な考えにふれられることを通じて、主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。③アンケートによる授業評価は良好だが、さらに効果的な指導が行えるよう、指導内容や方法、教材の工夫を行い、授業改善に努めた。	B	確かな学力	①医療、保護者、前籍校、福祉などの関係機関との連携を密にし、児童生徒一人一人のニーズに応じて指導を行う。②児童生徒が相互に学び合える学習の場を設定し、他者との学びを通して、主体的に学習に取り組む経験を重ねられるよう環境を整える。③アンケートの授業評価をもとに、学習指導の振り返りと授業改善を行う。	①医療、福祉等の関係機関以外にも、前籍校とも情報共有や副学習交流を通して連携して指導を行った。②ICT機器を利用したオンライン学習により、相互に学び合える学習の場が増えた。また、様々な体験をする場を設定し、学習を深めることにつながった。③アンケートの結果をより共有しやすく工夫し、教材の工夫や授業改善に役立てることができた。	B	確かな学力	①医療、保護者、前籍校、福祉などの関係機関との連携を密にし、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた指導の充実を図る。②ICT機器も活用しながら児童生徒が相互に学び合える学習の場を設定し、自らの学びを深めるとともに、コミュニケーションの力を育む。 ③アンケートの授業評価を教職員間で共有し、学習の振り返りと授業改善を行う。		
豊かな心	①子どもに寄り添い、個に応じた活動を通して安心感を高め、主体的に生きる気持ちを育む。②行事を含めた様々な集団活動への参加を通して、自分の役割と責任を自覚しながら活動しようとする態度を育てる。また、他者に関わる経験を積み重ね、互いの良さや違いを認め合い、社会の中で共生する気持ちを育む。	①子ども一人一人の気持ちを汲み取り、体調に合わせた安心して活動、発信ができる関係づくりに努めたりする事を通して、主体的に学習へ取り組む様子が見られるようになった。②ICTの活用を推進し、オンラインで様々な学校行事で活動の場、関わる人、意見を発表するなど他の児童生徒や学校外の人々に関わる機会をもち、自分の役割を果たそうとする態度などが見られるなど、社会の中で共に生きることを自覚することができた。	A	豊かな心	①児童生徒の気持ちに寄り添う活動を通して安心感や自己肯定感を高め、自分を大切に思う気持ちや主体的に生きる気持ちを育む。②様々な集団活動を通して、自分の役割と責任を自覚して活動しようとする態度を育てる。③ICTを活用し、他者に関わる経験を積み重ね、互いの良さや違いをなど多様な価値観を認め合い、社会で共生する気持ちを育む。	①児童生徒一人ひとりに合わせた学習内容の設定や教材の工夫を行うことで、意欲的に学ぼうとする姿が見られた。②集団学習の中で学習活動を発表する機会を設け、自分の役割を担うように指導支援を行った。③オンライン授業を積極的にを行い、普段関わりの少ない他の院内学級の児童生徒や教員、外部講師と関わり、学び合おうとした。	B	豊かな心	①児童生徒の気持ちに寄り添い、自己決定を尊重した活動を通して、安心感や自己肯定感を育む。②達成感と自己肯定感を高めるため、児童生徒の気持ちに寄り添い、安心して生活できる環境を整え、ニーズに応じた学習活動を積極的に展開する。③個の教育的ニーズに応じた活動とICTを活用した集団活動を通して、自分と他者を大切にすることを育む。		
健やかな体	①職員、保護者、関係機関との連携を深め、発達段階や病状に応じた生活リズムや生活習慣の形成など、健康に関する授業を計画し、自分の身体や健康についての意識を高める。②学習環境や病状など、活動制限の中でも、取り組みやすい内容や指導方法の工夫を行い、児童生徒が意欲的に身体を動かす機会を設ける。	①個別での歯科指導を通して、健康に関する学習を行なうことができた。今後は一人ひとりが健康についての意識が高められるプランを考えたい。②限られた場、活動できる範囲の内容で主体的に体を動かす機会をもつことができた。児童生徒の実情に合った授業内容を実施し、仲間や教員と競い合いながら意欲的に運動に親しめた。	B	健やかな体	①保健目標を活用し、児童生徒の心身の健康や保持増進を高める指導、支援を行う。②歯科保健活動と食育を通じ、一人ひとりが解決する能力や資質を身に付け、健康で安全な生活を送れるよう育む。③学習環境や病状など、活動制限の中でも児童生徒の実態に合わせて、楽しく無理なく身体を動かす活動やリラクゼーションを取り入れる機会を設ける。	①保健目標より毎月の保健目標を周知した。朝の会で保健目標を取り上げ、児童生徒に指導を行った。②学校保健委員会の取り組みとして年間を通して歯科指導を行った。食文化や食生活に関する知識を食育により知らせた。③児童生徒の実態に合わせて、楽しく無理なく身体を動かす活動やリラクゼーションの方法を実践した。	B	健やかな体	①児童生徒の心身の健康の保持増進と、より良い生活習慣の形成のための指導に、保健目標や保健だよりを活用する。②健康で安全な生活を送れるように、歯科保健活動や長期休業中の歯科カードの取り組みを行う。③学習環境や病状など児童生徒の実態に合わせて、オリビック・パラリンピックの競技大会を奨励し、無理なく体を動かし楽しさを共有できる活動やリラクゼーションを取り入れる機会を設ける。		
センター的機能の充実	①小中高等学校教員対象の公開講座を実施し、病弱児童生徒への理解を深める。②復学へ向け、移行教育と転出後のフォローアップを本人、保護者・前籍校に対していねいに行う。③連携支援だよりや学校紹介を通して、病弱児童生徒の教育についての発信を行う。	①2回の公開講座では、病弱児のみならず多くの学校で困り感を抱える児童生徒の理解できる視点の学校での学びの場を設けた。②退院後の児童生徒の状態の多様化に合った移行教育のシステムを整えている。③学校だより、連携支援だより、小中学校や関係機関が集まる場などで、本校の教育について広く理解を求めるための学校紹介を行った。	B	センター的機能の充実	①小・中・特支・高等学校教員対象の公開講座を実施し、病弱児童生徒への理解を広げる。②復学へ向け、いねいな移行教育と転出後のフォローアップを継続する。保護者や前籍校からの相談を続けて受けられる関係を構築する。③連携支援だよりや学校紹介を通して、病弱児童生徒の教育についての発信を行う。	①公開講座では、どの校種の教員にもニーズがある愛着をテーマにしたことで好評だった。また、病弱に焦点を当てた講座では、病弱教育のイメージを多くの教員にももたらした。②子どもの実態の変化により求められる移行教育について、検討を継続した。フォローアップも丁寧に行った。③学校だより、連携支援だよりを通して本校の取り組みを広く発信した。	B	センター的機能の充実	①教育と医療の連携の一環として、小・中・特支・高等学校教員対象の公開講座を継続して実施する。②スムーズな復学のために、個に応じた支援を転出校と共有する。子どもや保護者に加え、地元校への支援としての視点をもって行う。子どもに必要な移行教育が行えるようにする。③学校だより、連携支援だより、HPを通じ、本校の取組を発信していく。		
いじめへの対応	①校内人権研修を充実させ、教職員の人権感覚を高める。②関係諸機関と連携し、安心してスムーズに復学できる環境や手立てを構築する。③自分の思いを他者に伝えられる子どもを育てる。④アンケート等を活用し、子どもの変化や困り感を見逃さない体制づくりをする。	①自殺防止、社会的養育について理解を深める研修を行い、一人一人の背景や思いに配慮できる視点を養った。②児童生徒が安心して復学できるよう、個に応じた関係機関と連携、支援をした。③人権キャラバンや日々の活動を積み、自分の思いを他者に伝え、受け入れられる経験を積めるよう環境を整えた。④複数の教員で児童生徒を細やかに見取り、困り感に寄り添うことができた。アンケート結果のフィードバックを行った。	B	いじめへの対応	①校内研修を充実させ、教職員の人権感覚を高める。②関係諸機関と連携し、児童生徒が安心してスムーズに復学できる環境や手立てを構築する。③教師自らが日々の対応で児童生徒を大切にしている姿勢を示し、児童生徒も自分と他者を大切に思う気持ちを育てるようにする。④アンケート等を活用し、児童生徒の変化や困り感を見逃さない体制づくりをする。	①いじめ・自殺防止、子どもの人権を考える研修を行った。制限が多い中でも、子ども一人一人を尊重する関係づくりの大切さを学んだ。②医療、地元校と連携し、子どもが不安なく復学できる環境づくりに努めた。③互いを思いやる言葉や言動が、子ども同士の関わりに見られた。④いじめの定義を見直すことで、児童生徒の困り感をより細かく見ることができるようになった。	B	いじめへの対応	①校内研修を継続し、教職員の人権感覚を高める。②関係諸機関と連携し、児童生徒が安心して過ごせるかき共有する。③教師自らが日々の対応で児童生徒を大切にしている姿勢を示し、児童生徒も自分と他者を大切に思う気持ちを育てるようにする。④複数の目で子どもを注意深く見たり、アンケート等を活用したりして、児童生徒の変化や困り感を見逃さない体制づくりをする。		
人材育成・組織運営(働き方)	①働き方改革ワークショップを通して、効率的な会議の持ち方等の本校の課題解決に向けた改善策を募り、学校運営に反映させる。②人材育成を充実させるために、初任研や年次研などメンターの効果的な組織運営を図る。③専門研修や校内研究を通して、教職員一人ひとりの病弱教育の専門性を高める。	①各経営部等より働き方改革分析チームを組織し、アンケート結果の分析を基に、職員全体で課題の共有及び働き方改善に向けて取り組むことができた。②初任研、年次研の充実を図り、メンター研では、異校種の授業研を参観し、指導方法等に振り返りに生かすことができた。③各専門分野の講師による研修や校内研究を通して、専門性を高めることができた。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①働き方に関する職員アンケートを実施し、その結果を働き方分析チームで分析・検討することで、働き方の改善を推進することができた。②校内初任研や年次研で、近隣校の国際教室など異校種見学を実施できた。③外部専門家のアドバイスを受けながら、経営部ごとに校内研究を計画的に進めることができた。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①児童生徒の一人ひとりの課題に合わせて、指導支援を行うために、病弱教育の専門性を高める。②本校、院内学級及び訪問の児童生徒のさまざまな実態に合わせて、経営部内や訪問の協力体制を築く。③持続可能な働き方を考え、職場全体で課題を共有し、改善を図る。			
GIGAスクール構想	①ICT研修や会議、授業等、ICT機器活用や実践の積み重ねを通して、教職員一人ひとりの目的に応じて情報を活用する能力を高める。②教室や面談室、ペッドサイド、オープンスペース等、多様な授業形態に応じたICT環境の整備充実を図る。	①ICT研修を行い、教職員一人ひとりのICT機器の活用能力を高め、授業等の実践の場を生かすことができた。今後は同様の取り組みを継続し、能力向上を図っていく。②ペッドサイドやタブレット端末を活用できるようスタンドを購入したり使用状況に応じてポケットWi-Fiの台数調整を校内で行ったりして、多様な授業形態に対応できるようにした。	B	GIGAスクール構想	①ICT研修や会議、授業等、ICT機器活用や実践の積み重ねを通して、教職員一人ひとりの目的に応じて情報を活用する能力を高める。②ペッドサイドやオンライン授業、訪問指導等の授業形態に応じたネットワーク環境やICT機材の整備充実を図る。	①ICT研修で学んだことを、目的に応じて実際に活用する場を多くつづることができた。今後も研修・実践を積み重ね、能力向上を図っていく。②ペッドサイドやオンライン授業、訪問指導等の形態での授業は増え、ネットワーク環境やICT機器の充実にも努めた。今後もよりよい環境を整えるために委員会とも連絡をとり合っていく必要がある。	B	GIGAスクール構想	①ICT研修や会議、授業等、ICT機器活用や実践の積み重ねを通して、教職員一人ひとりの能力を高め、情報活用能力を育成していく。②ペッドサイドやオンライン授業、訪問指導等の授業形態に応じたネットワークやICT機材のよりよい環境について検討し、整備充実を図る。		
地域学校協働活動	①本校の複合福祉施設や院内学級が入る病院の方々へ、お便りやHP等の発信を通して、本校の教育的活動への理解を深めてもらう。②学校運営協議会委員による学校関係者評価の精度を高めるために、学校運営協議会委員が各院内学級とのオンライン授業や行事を参観する機会を増やす。	①学校だよりを院内学級のある医療機関や本校施設の関係機関へ送付と共に、学校HPで学校行事での取組の様子を「うらふね日記」の中で紹介し、幅広く本校の教育活動の理解や周知に努めた。②委員の方に、定例会議で本校の教育活動の動画の視聴、学校行事の参観を通して理解を深めていただき、課題解決への助言をいただく事ができた。	B	地域学校協働活動	①本校の複合福祉施設や院内学級が設置されている各病院へ、学校便りやHP等の発信を通して、本校の教育活動への理解や協力を推進し、関係機関との連携を深める。②学校運営協議会委員に定例会議と連携し、全行事等で本校の教育活動の取組を知っていただく機会を設定し、課題と助言の共有を図りながら、学校運営の改善を図る。	①本校の学習活動や作品等の取組を、各院内学級だよりや学校だより、HPで発信することを通して関係機関に本校の教育活動への理解や協力を進めることができた。②学校運営協議会の定例会議では、オンライン開催を実施し、遠隔からの参加方法でも多くのご意見やご助言をいただくことができた。	B	地域学校協働活動	①地域、市教委、他の病弱教育機関に向けて、本校の教育活動の理解や協力・連携を深めるために、学校便りやHP等の内容の充実を図り、発信力を高める。②学校運営協議会委員には、全校行事や学校行事への招待、学校だよりやHPの発信を通じて本校の教育活動の取組を発信し、対面やオンラインでの定例会議において課題の共有を図り、学校運営の改善を図る。		
学校関係者評価	児童生徒や保護者からのアンケート評価は、肯定的な回答や意見が多く寄せられており、各々の教職員の丁寧な対応が結果に表れている。在籍中の不登校経験のある児童生徒は、この学校での経験をもとに学校に対して肯定的な印象をもって前籍校へ戻ってくれと良い。保護者は児童生徒の病気の事で不安な思いを抱えているが、保護者支援をきちんと行い、信頼関係が築くことができていた。学校HPで学校の様子を周知し、知る手がかりになっている事も評価できる。オンライン授業で学びを止めないことはとても良い取組である。教職員からの評価で、「研究や研修について」を課題としているが、次年度は早期から取組を開始すると良い。			学校関係者評価	児童生徒、保護者ともに学校の評価に高評価で児童生徒一人ひとりに応じた教育がなされていると感じる。在籍している児童生徒の個々の状況が異なり、在籍期間も異なる事から、一般的な校内研修の内容が職員全体で汎化されにくい事と察する。学校から「発信」については児童生徒、保護者だけでなく、他校や委員会にも浦舟特別支援学校の役割の重要性を理解していただけるようにできると良い。子どもたちのできること、できそうなこと、また病気の状況に合わせて、きめ細かいサポートを行っていることがよく分かった。子どもの保護者の方々の大きな支えも感じた。学校評価の課題分析も丁寧に行われている。Zoomを活用した学校運営協議会の会議運営も良い。		学校関係者評価				
評価結果に対する学校の見解	児童生徒、保護者、教職員の共通のアンケート項目「個に応じた学習指導」で良好の評価結果が得られたのは、経営部を中心に児童生徒の情報交換ととも指導内容や方法の共有を図ることができた結果と受け止めている。本校の良さとして継続していきたい。前籍校、医療、保護者等との連携を深める取組は、カンファなどを通して実施することができた。今後は児童生徒の内面的な変容についても共通理解を図り、より信頼関係を確かなものにしていきたい。研究ではICT活用で様々な実践を試み、2月に報告会を実施した。次年度は早期から取組を開始し、アンケート結果に反映されるようにしていきたい。			評価結果に対する学校の見解	今年度も児童生徒、保護者からの高い学校評価は、各経営部の教職員間で児童生徒の実態や課題、配慮事項の共有を打ち合わせや授業記録などで平日頃から丁寧に行っている結果によるものと受け止めている。一方、校内研修の設定内容で課題が明らかになったため、教職員共通の内容への見直しを行い、一人ひとりのニーズに合ったものは研修システム等を利用して、各自の研鑽を図ってほしい。学校からの「発信」においても、想定される対象を広げ、様々な情報発信に努めていきたい。学校運営協議会の会議運営において、次年度もZoom開催の継続を検討していきたい。		評価結果に対する学校の見解				
中期取組目標振り返り	今年度、本校の学校教育目標は新たな4つの視点でより具体的な目標に変わり、教職員が児童生徒の教育的ニーズに合わせた指導や支援の実践につなげることができた。ICT活用が推進され、一時退院中の児童生徒とのオンライン授業や他の病院の児童生徒との意見交換を図る授業を継続して実施することができた。4月よりスタートした学校運営協議会では、委員の方に全校行事への参観や学校HPで日々の学校の様子を知る機会を設定した。また、年4回の定例会議では本校の課題へご助言をいただくなど、本校の学校運営が多角的な視点で改善することができた。次年度も本市の病弱教育の中心として、外部への発信を継続していきたい。			中期取組目標振り返り	重点取組分野の「確かな学力」では、福祉機関との連携に重点を置き、前籍校との復学支援カンファ等の会議では児童生徒の多面的な支援の充実につなげることができた。「GIGAスクール構想」では、各教科などでタブレット端末等を用いた学習指導の使用が定着し、オンライン上で児童生徒間でのやり取りなども実施されるなど教職員の指導方法の変容が大きく見られた。次年度は4月から小学校で新しい教科書の使用が始まるため、ICTの活用においても教科等の学習内容や目標に沿って進めていきたい。学校運営協議会では、定例会議で委員からの意見を学校運営にすぐに反映できるような仕組みづくりや外部に向けた発信力向上への期待にも応えていきたい。		中期取組目標振り返り				